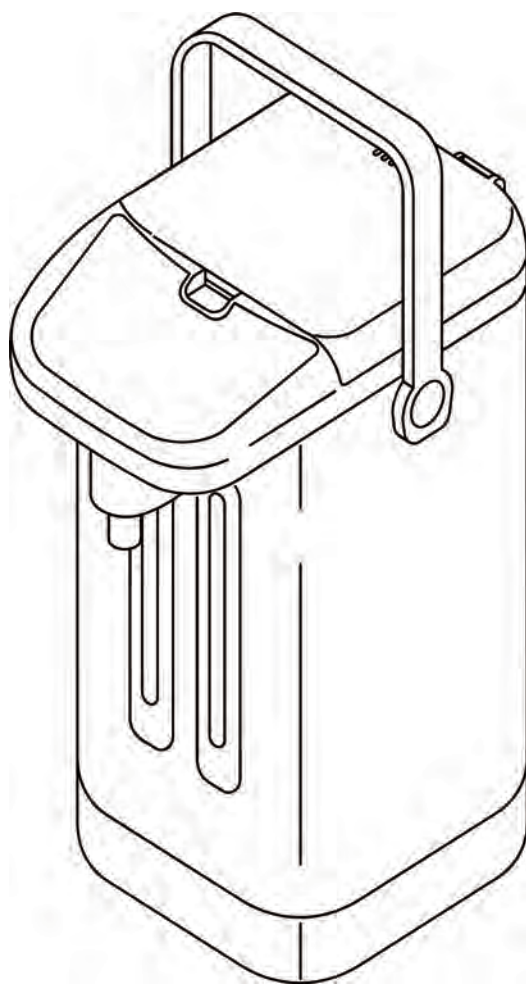


電解次亜塩素酸水生成器
Drgon Beam - Pot
ドラゴンビームポット

取扱説明書



この度は当社製品をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。
この取扱説明書には本製品をご使用になる上で大切なことが記載されておりますので、
ご使用前に必ずお読みの上、正しくお使いください。

- 正しい使用をされなかった場合の製品の故障および事故について、当社は一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品は医療機器ではありません。
- 生成された電解水を洗剤、薬品等と混ぜて使用しないでください。
- 生成された電解水は飲用できません。

目 次

安全上のご注意	4, 5
各部の名称	6
付属品	7
電解水の作り方	
電解原液の作り方	8
電解水の生成	9
電解水の取り出し方法.....	10
電解水の確認	11
お手入れのしかた.....	12
故障かなと思ったら	13
仕様.....	14
保証書.....	15

■安全上のご注意

(このページは必ずお読みください)

表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。その表示や意味を理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。



警告

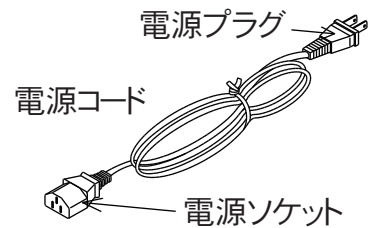
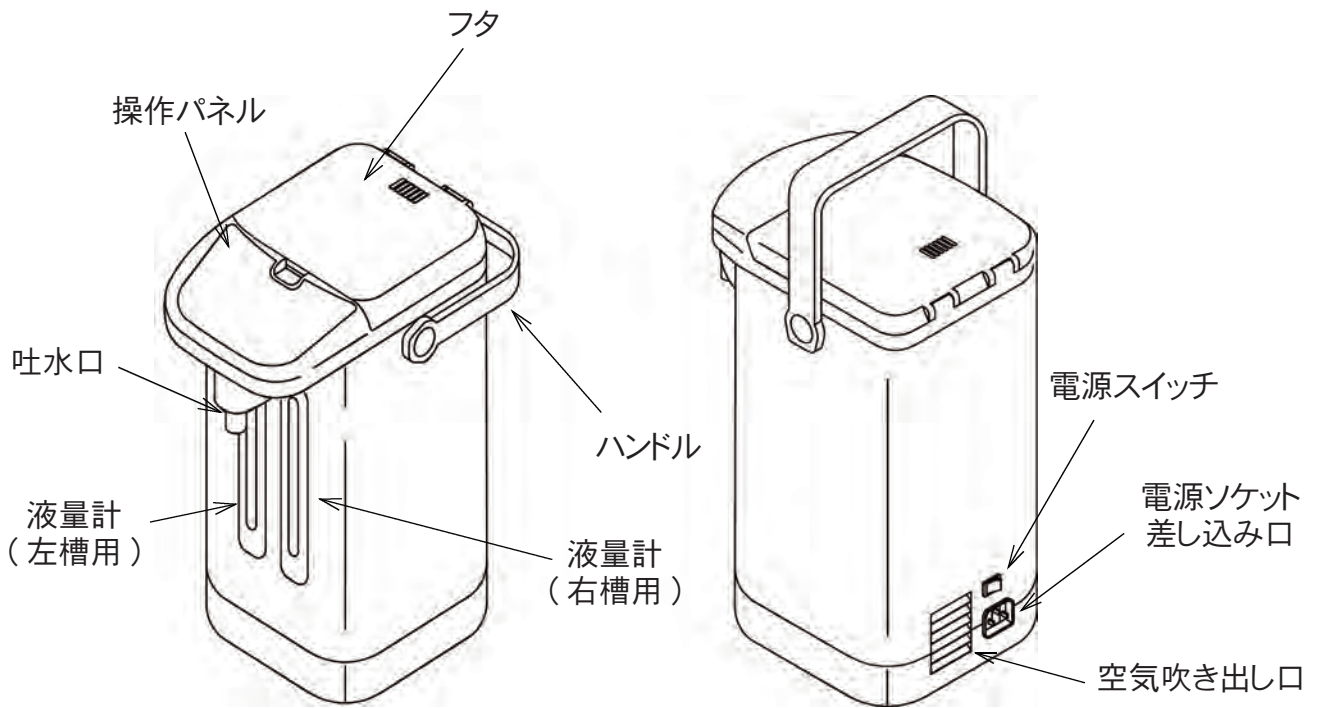
- * 表示された電源電圧(交流100V)以外の電圧で使用しないでください。
火災、感電の原因となることがあります。
- * 本器は国内でご使用ください。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。
火災の原因となることがあります。
- * 濡れた手で電源プラグの抜き差し操作はしないでください。
感電の原因になることがあります。
- * 電源コードが折れ曲がったり傷ついたりしないようにしてください。電源コードが破損し火災、感電の原因となります。
- * タコ足配線はおやめください。発熱し火災の原因となります。
- * 電源コードが傷んだまま使用したり、ガタついているコンセントでは使用しないでください。火災、感電の原因となります。
- * 本体を誤って水中に落としたときは、
1) 電源プラグをコンセントから抜き、2) 本体を引き上げ、
3) 販売店に修理を依頼してください。
水道蛇口から直接水を入れしないでください。製品内部の電気回路部分に水が掛かり火災、感電の原因になることがあります。
- * 本器の改造、分解は絶対にしないでください。火災、感電の原因になります。
その結果生じた事故については一切責任を負いません。
- * 浴室やシャワールームでの使用は絶対にしないでください。
- * 生成された水は外用水ですので、飲用として使用しないでください。
万が一飲んでしまった場合には水を飲ませ、医師に相談してください。
- * 風通しの良い所で使用してください。
- * 電源コードの電源プラグ、電源ソケットにピンなど金属片やごみを付着させないでください。感電・ショート・発火の原因になります。

注意

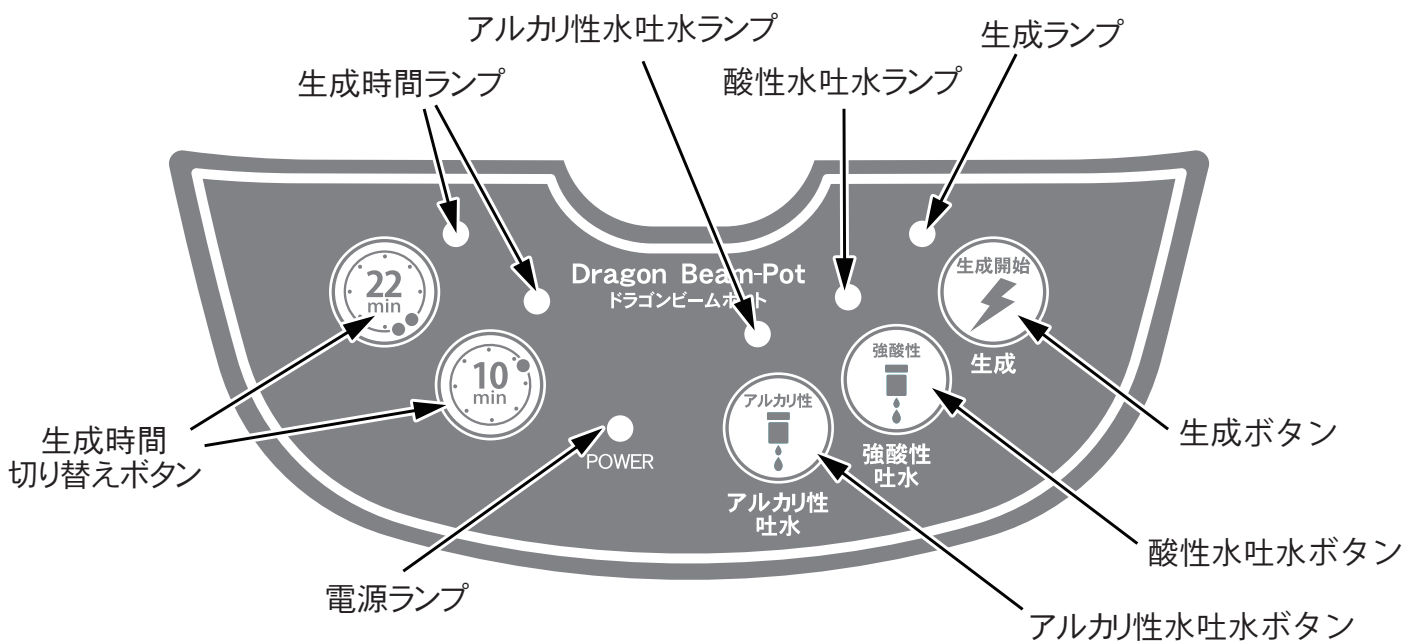
- * 本器に使用する水は水道水を基準としています。不適な水を使用すると、故障の原因となることがあります。次のような水は使用しないでください。井戸水、濁りのひどい水、硬度の高い水、塩分の多い水、赤さびの多い水、汲み置きの水、その他水道基準以外の不適な水。
- * 生成された水が目に入った場合はこすらずに水でよく洗い応急処置をし医師に相談してください。
- * 本体底部の空気取り入れ口を塞がないためにカーペットや絨毯などの敷物の上へ設置しないでください。
- * 背面にある空気吹き出し口を塞がないでください。
- * 本体が水平な位置になるように設置してください。グラついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には設置しないでください。落ちたり、倒れたりする原因になることがあります。
- * 電解中は電源プラグを抜かないでください。万が一停電等で電解中に電源が切れた場合は本体内部の水を捨て、新たに食塩水を作り、最初から電解をやり直してください。
- * 30℃以上の温水は使用しないでください。故障の原因となることがあります。
- * 水の出口を塞がないでください。故障の原因となることがあります。
- * 水の出口をホースなどで延長しないでください。故障の原因となることがあります。
- * 本器の上に物を置かないでください。故障または事故の原因となることがあります。
- * 本器を落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- * 本器に水をかけないでください。故障の原因となることがあります。
- * 電源プラグをコンセントから抜き差しする場合は、必ずプラグを持って行ってください。コードを引っ張るとコードが傷み火災、感電の原因となることがあります。
- * お子さまの手の届かないところでご使用ください。
- * 寒冷地でご使用の場合は、本体内が凍結しないように水を抜き取り、室温でご使用ください。
- * 急に寒い場所から暖かい場所に移動しないでください。本体内で結露が発生し、故障の原因となります。
- * アルカリに弱いアルミ製容器や酸に弱い銅製容器などは使用しないでください。また酸やアルカリに弱いプラスチックなども使用しないでください。
- * 本体底部はぬらさないでください。ぬらしたまま本体を逆さまにすると、本体内に水が入り故障の原因となります。

■各部の名称

●本体



●操作パネル



■付属品

<p>計量カップ2ℓ用 (1個)</p>	<p>精製塩 (1袋)</p>	<p>攪拌器 (1本)</p>	<p>精製塩用計量スプーン (1本)</p>
	 <p>純度99%以上</p>		 <p>0.8g計量用</p>
<p>酸性水用スプレー (1個)</p>	<p>酸性水保存容器 (1個)</p>	<p>アルカリ性水保存容器 (1個)</p>	<p>試験紙セット (1セット)</p>
			 <p>ヨウ化カリウム 澱粉紙 (20枚) 比色紙 (色見本1枚)</p>
<p>酸性水保存ラベル (赤5枚)</p>	<p>アルカリ性水保存ラベル (緑5枚)</p>	<p>電源コード (1本)</p>	
			

■電解水の作り方

●電解原液の作り方

1. 計量カップに精製塩を入れ水を加えて電解原液をつくります。

- (1) 精製塩を精製塩用計量スプーンすりきり1杯、または2杯いれてください。
- (2) 水(水道水)を計量カップのメモリ2000まで入れてください。



⚠ 注意

- ※塩は精製塩(純度99%以上)を使用してください、天然塩や粗塩、調味塩は使用しないでください。故障の原因となることがあります。
- ※精製塩の量や電解時間により、有効塩素濃度変動します、詳しくは下記の図をご参照下さい

<強酸性水の生成データ>

電解時間 / 食塩量(※各容器に)	有効塩素濃度(ppm)	pH
10分 / スプーン1杯(0.8g)	酸性側約30~45ppm	酸性側約2.6
22分 / スプーン1杯(0.8g)	酸性側約40~50ppm	酸性側約2.6
10分 / スプーン2杯(1.6g)	酸性側約65~85ppm	酸性側約2.6
22分 / スプーン2杯(1.6g)	酸性側約90~105ppm	酸性側約2.5

※上記は納品時での推定値となります

2. 精製塩が溶けきるまで攪拌器でよくかき混ぜます。



3. 電解原液を本体(槽内)に入れます。

4. 1~3を繰り返して電解原液を合計4リットル作り
本体(槽内)の左右の水位が同じようになる
ように、電解原液を入れます。

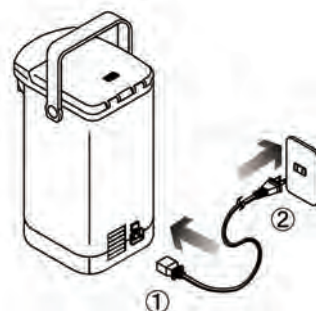
- ※電解原液は必ず規定量(4リットル)入れてください。
- ※塩素濃度をご理解の上、次亜塩素酸水をご活用ください。



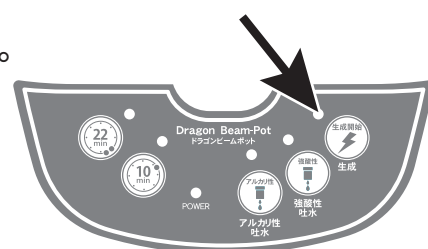
5. フタを閉めます。

●電解水の生成

1. 電源コードのソケットを本体背面の電源ソケット差し込み口に接続します。
次に電源プラグをコンセントに接続してから、電源スイッチをONにします。
操作パネルの電源ランプが点灯します。



2. 生成ランプが消えていることを確認します。
生成ランプが点灯している場合は、生成ボタンを1回押すと生成ランプが消灯します。
10分 / 22分のいずれかのボタンを押し、電解時間を選択して下さい。



3. 生成ボタンを押すと生成ランプが点滅し生成が始まります。(約10分 / 22分)

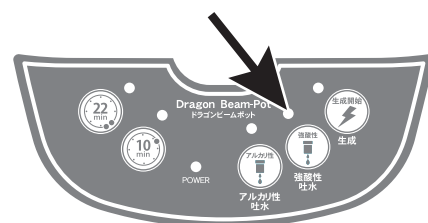
※電解中は電源を切らないでください。

※電解中に停電等で電源が切れた時は電源復帰後全てのランプが点滅してお知らせします。
(いずれかのボタンを押すことにより点滅は解除されます。)

※停電などで生成が正常に完了しなかった場合は、生成水を全て排水し、最初からやり直してください。

※電解中はフタを開けず、換気を充分行ってください。

4. 生成ランプが点滅から点灯に変わると生成が完了です。



⚠ 注意

※電解終了後、内部の強電解水を完全に吐水させるまで持ち歩きはしないでください。
電解水がこぼれ出る場合があります。

※本体を回転させるときは、ゆっくり回してください。速く回転させると電解水がこぼれ出る場合があります。

●電解水の取り出し方法

1. 電解が完了したら電解水保存容器を吐水口に
合わせて置き、酸性水を採水する場合は「強酸性
吐水」ボタンを、アルカリ性水を採水する場合は
「アルカリ性吐水」ボタンを押して、各々別の
容器に採水してください。

吐水ランプがしばらく点滅しそれから点灯に変わります。
吐水が止まると終了音（ピー）が鳴り、酸性水吐水ランプまたは
アルカリ性水吐水ランプは 消灯します。

各吐水ボタンは短く1回押すと約 2 リットル連続で吐
水します、途中で止める時は再度、同じ吐水ボタンを
押してください。各吐水ボタンを長く押すと押してい
る間だけ吐水し、離すと止まります。

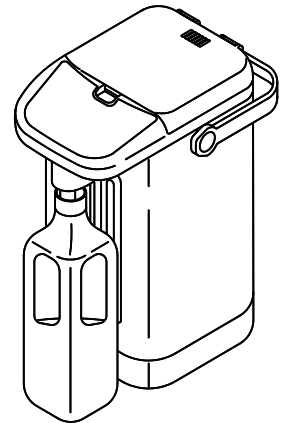
※「強酸性吐水」ボタンを押した時右の水量計が少なくなる時と左の水量計が少なくなる
時があります。これは電気分解が1回ごと極性を反転させて行なわれるため、酸性水が
右槽に生成されたり左槽に生成されたり 1 回ごと替わるためです。「強酸性吐水」は
それに合わせ右槽あるいは左槽から吐水を行います。同様に「アルカリ性吐水」も
右槽あるいは左槽のどちらから吐水を行います。故障ではありません。

※電解水生成中は全てのボタンを受け付けません、やむをえず生成を中断する場合は
コンセントから電源コードの電源プラグを抜いてください。再度電解を行う場合は
本体内の水を排水し最初からやり直してください。

2. 本体から電解水を全て取り出してから 1 回生成ボタンを押して
生成ランプを消してください。

※「強酸性吐水」ボタンと「アルカリ性吐水」ボタンを押した後でないと、「生成」ボタンを
押しても生成ランプは消えません。

※生成ランプが消灯していないと次回生成時に生成ボタンを押しても
電解が開始されません。



⚠ 注意

※電解水は生成後なるべく早く本体から全部吐水してください。

※電解終了後、本体内部の冷却用ファンが約10分程動いて自動的に止まります。

冷却用ファンが止まるまで電源スイッチを切らないで下さい。また、電源プラグや電源ソケットを抜かないでください、ファンが止まる前に電源を切ると故障の原因となることがあります。

※電解中はフタを開けないでください。

※電解中は臭いが発生します、換気を充分行ってください。

※付属の保存容器以外を使用する場合には、アルカリ性水にはアルカリ性水用の、酸性水には酸性水用の専用保存ラベルを必ず貼ってください。

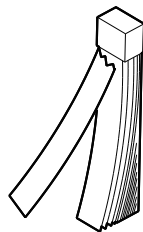
※飲み物の空容器には絶対に保存しないでください。電解水を誤って飲んでしまう恐れがあります。

※お子さまの手の届かない場所に保管してください。

■電解水の確認

●試験紙(ヨウ化カリウム澱粉紙)の使い方

各ご家庭の水質やその他、様々な条件の違いにより、適切な電解水が得られない場合があります。ガラスのコップ等に酸性水を入れ、付属の試験紙でご確認ください。



1枚切り取る



酸性水に浸ける

- ①比色紙の比色表と比べたとき色が薄い場合。
電解が弱すぎます。精製塩の量を増やし最初からやり直してください。
- ②比色紙の比色表と比べたとき色が「適正」の場合。
適切な電解です。
- ③比色紙の比色表と比べたとき色が濃い場合。
電解が強すぎます。精製塩の量を減らし最初からやり直してください。

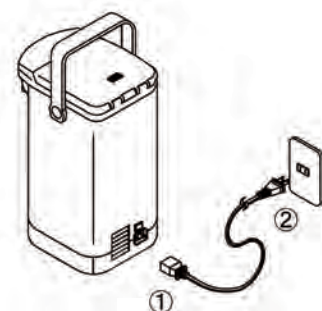
※この判定方法は簡易的なものです、目安として使用してください。

■お手入れのしかた

●日常のお手入れ

●本体内(槽内)のお手入れ

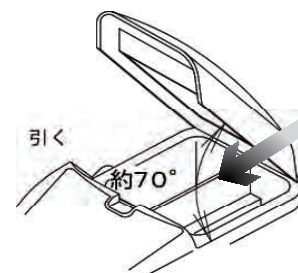
1. 電源スイッチを「OFF」にし、電源コードをコンセントと本体から抜いてください。
2. 本体内(槽内)に水道水を入れてすすぎ洗いをしてください。
(水道蛇口から直接水を入れしないで、計量カップ2リットル用で水を注いでください。)
3. 本体の電源ソケット接続口、電源コードの電源ソケット・電源プラグがぬれていないことを確認してから電源コードを本体とコンセントに接続してください。
4. 空のバケツ等を本体吐水口に合わせて置き、電源スイッチを「ON」にします。
5. アルカリ性吐水ボタンを押し続け本体内の片側の槽の水を排水し、次に強酸性吐水ボタンを押し続け反対側の槽の水を排水してください。



●本体外側のお手入れ

本体の外側の汚れや水分は良く絞った布で拭き取るようにしてください。

フタは取り外すことができます、必要に応じてはずして水洗いをしてください。



(フタを70°ほど開けて手前に引っぱってはずしてください。)

■故障かなと思ったら

症状	原因	対処
電源ランプが点灯しない。	電源プラグか電源ソケットが抜けている。	電源プラグまたは電源ソケットを接続してください。
	電源スイッチが「OFF」になっている。	電源スイッチを「ON」にしてください。
	本体内部ヒューズ切れ。	お買い上げの販売店に連絡してください。
アルカリ性吐水ボタン、 または強酸性吐水ボタンを 押しても吐水されない。	電解水の生成が完了していない。 (このとき生成ランプが点滅しています。)	電解が完了してから再度ボタンを押してください。
	電源プラグか電源ソケットが抜けている。	電源プラグまたは電源ソケットを接続してください。
	電源スイッチが「OFF」になっている。	電源スイッチを「ON」にしてください。
酸性水を電解用試験紙で 測定すると色が薄い。	電解原液を作った時の精製塩の量が少なかった。	電解原液の精製塩の量を少し増やし最初から作り直してください。
	電極板の寿命。	お買い上げの販売店にご相談ください。
酸性水を電解用試験紙で 測定すると色が濃い。	電解原液を作った時の精製塩の量が多すぎた。	電解原液の精製塩の量を減らして最初から作り直してください。
すべてのランプが点滅している。	電解中に停電等で電源が切れた。	いずれかのボタンを押して点滅を解除してからアルカリ性吐水ボタンを押し続け本体内の片側の槽の水を排水し、次に強酸性吐水ボタンを押し続け反対側の槽の水を排水して最初から作り直してください。 (各吐水ボタンを離すと吐水は止ります。)

■仕様

品名	電解次亜塩素酸水生成器
名称	ドラゴンビームポット
型番	4XL1
外形寸法高さ	407mm×幅205mm×奥行き270mm(突起部含まず)
本体重量	約3.5Kg
定格電圧、周波数	AC100V 50/60Hz
定格電流	0.6A
使用周囲温度	0～40℃(凍結不可)
使用相対湿度	0～85%RH
給水水質	上水道水を原則とする
給水水温	0℃～30℃
電解方法	バッチ式隔膜電解方式
電解時間	約10分・約22分
電極洗浄	使用毎の極性反転
処理水量	4リットル
消耗品	試験紙セット(ヨウ化カリウム澱粉紙)、酸性水保存ラベル、アルカリ性水保存ラベル、精製塩

*仕様、外観等は製品改善のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

保証書

本書は、本書記載内容に基づき無料修理を行うことをお約束するものです。
お買い上げの日から下記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買い上げの
販売店に修理をご依頼ください。

お客様	フリガナ		お電話	
	ご氏名		郵便番号	
	フリガナ			
	ご住所			

品名	電解次亜塩素酸水生成器	
名称	Dragon Beam-Pot 4XL1	
製造番号		
保証期間	本体 (消耗品を除く)	1年

お買い上げ日	年	月	日
--------	---	---	---

販売店	住所	
	店名	
	電話	

※太枠内は必ずご記入ください。

保証規定

1. 正常な使用状態(取扱説明書等の使用条件並びに注意事項に従った使用状態)で故障した場合には、お買い上げの販売店が無料修理を致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合は、お買い上げの販売店に本書をご提示のうえ、ご依頼ください。
3. 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
 - 1) 本書のご提示がない場合。
 - 2) 本書にお買い上げの年月日、お客様名、お買い上げの販売店名の記入がない場合、および本書の字句を書き換えられた場合。
 - 3) 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障および損傷。
 - 4) お買い上げ後の移動、輸送、落下などにもなう故障および損傷。
 - 5) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天変地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障および損傷。
4. この保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
5. この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせ
ください。

この取扱説明書は大切に保管してください。
万一ご使用中にわからないことや不具合が生じたときにお役に立ちます。

総販売元

NiG 株式会社エヌ・アイ・シー

〒213-0031 川崎市高津区宇奈根 779-4

TEL : 044-829-5573 FAX : 044-813-5877
